

審査の結果の要旨

論文提出者 Augusto Castro (アウグスト・カストロ)

ペルー・カトリック大学の Augusto Castro (アウグスト・カストロ) 氏の論文博士論文 *El pensamiento peruano a inicios del siglo XX* (20世紀初頭におけるペルーの思想) は、19世紀から20世紀にかけて活躍したペルーの哲学者である Alejandro Deustua (アレハンドロ・デウストゥア) の思想の読解を中心に、Victor Raúl Haya de la Torre (ビクトル・ラウル・アヤ・デ・ラ・トレ)、José Carlos Mariátegui (ホセ・カルロス・マリアテギ)、Victor Andrés Belaunde (ビクトル・アンドレス・ベラウンデ) という3人の政治家・思想家の思想の解釈を織り交ぜながら、表題にある通り、20世紀初頭のペルーの思想状況を分析したものである。

本論文は3つの部分から成る。まず、6章によって構成されている第1部 *La filosofía entre nosotros* (我々の間での哲学) は、スコラ哲学などの神学から、ヨーロッパの実証主義と心霊主義の影響、実証主義批判、自由主義を次々に分析しながら、ラテンアメリカおよびペルーの思想の流れが手際よく紹介されている。

第2部 *Alejandro Deustua y la influencia del bergsonismo* (アレハンドロ・デウストゥアとベルクソニズムの影響) は、本論文の中心をなす部分であり、五つの部分に分けられている。4章からなる1. *Una realidad social construida históricamente por el utilitarismo y el positivismo* (功利主義と実証主義によって歴史的に作られた社会的現実) では、デウストゥアによる整理にしたがって政治的、社会的、経済的コンテクストをまとめている。これも4章からなる2. *La cuestión social; el problema indígena, la educación y el desastre moral* (社会的問題; 先住民問題、教育および道徳の崩壊) では、先住民や国民教育といった問題を道徳の観点から論ずる。5章からなる3. *La reflexión moral de Alejandro Deustua; Las teorías morales "inventadas" y crítica al criterio economicista* (アレハンドロ・デウストゥアの道徳観; 作られた道徳理論と経済主義基準批判) では、近世の哲学潮流をたどるデウストゥアに寄り添いながら、彼の道徳観を明らかにする。3章からなる4. *La libertad como creación* (創造としての自由) では、道徳意識の出発点であり道徳的行為を形

づくるものとしての自由について、ベルクソンなどに依拠しながら考察する。そして、3章からなる最後の 5. La Estética de la Libertad (自由の美学) では、デウストゥアによるこの問題に対する哲学的な回答を提示している。

3章からなる第3部 El Pensamiento ideológico y político de Víctor Raúl Haya de la Torre, José Carlos Mariátegui y Víctor Andrés Belaunde (ビクトル・ラウル・アヤ・デ・ラ・トレ、ホセ・カルロス・マリアテギ、ビクトル・アンドレス・ベラウンデのイデオロギー・政治思想) では、ベルクソンの哲学の流れの中に位置し、デウストゥアの強い影響を受けて思想を形成したものとして、20世紀初等から中庸にかけて活躍した政治思想家であるアヤ・デ・ラ・トレ、マリアテギ、ベラウンデの思想について考察し、エウストゥアの思想的影響力について考察する。

本文 572 頁にのぼる本論文の価値は、第一に、現在ではほとんど言及されることがなく、いわば忘れ去られた存在である思想家アレハンドロ・デウストゥアの著作の詳細・厳密な読解をとおして、彼の思想を紹介したことである。このような浩瀚な研究は今まで行われたことがなかった。また、単に保守思想家として片づけられてしまう傾向があったデウストゥアの思想はそのような単純なものではなく、個人の自由な精神を強調するものであり、実学的かつ教育的な性格を大いに持ったものであったことを見出したことも、この論文の大きな貢献である。デウストゥアは保守的ではあったが、19世紀と20世紀を橋渡しする存在であり、若い思想家たちに影響を与え、さまざまな可能性を芽生えさせた存在であったという指摘も非常に重要である。ペルーにおいて初めて思想体系を打ち立てたデウストゥアとその後継者たちの思想を研究することは、ペルーならびにラテンアメリカの政治や思想の研究において重要な位置を占めることを、理解させてくれる優れた論文であると評価できる。

改善すべき点も、なしとしない。特に、第3部の議論をより一層深める必要があると、審査員によって共通して指摘された。また、デウストゥアの思想の影響や展開の可能性、アメリカ合衆国の功利主義とラテンアメリカ思想界の関係についても、審査員から突っ込んだ質問が行われ、応答の中で数多くの疑問が氷塊したとはいえ、論文の中でより明確に記述されるべきであったというのが審査員全体の評価である。

しかしながら、これらの疑問も本論文の価値を大きく減ずるものではなく、審査員全員一致でアウグスト・カストロ氏に博士号を授与するのがふさわしい

という結論を得た。